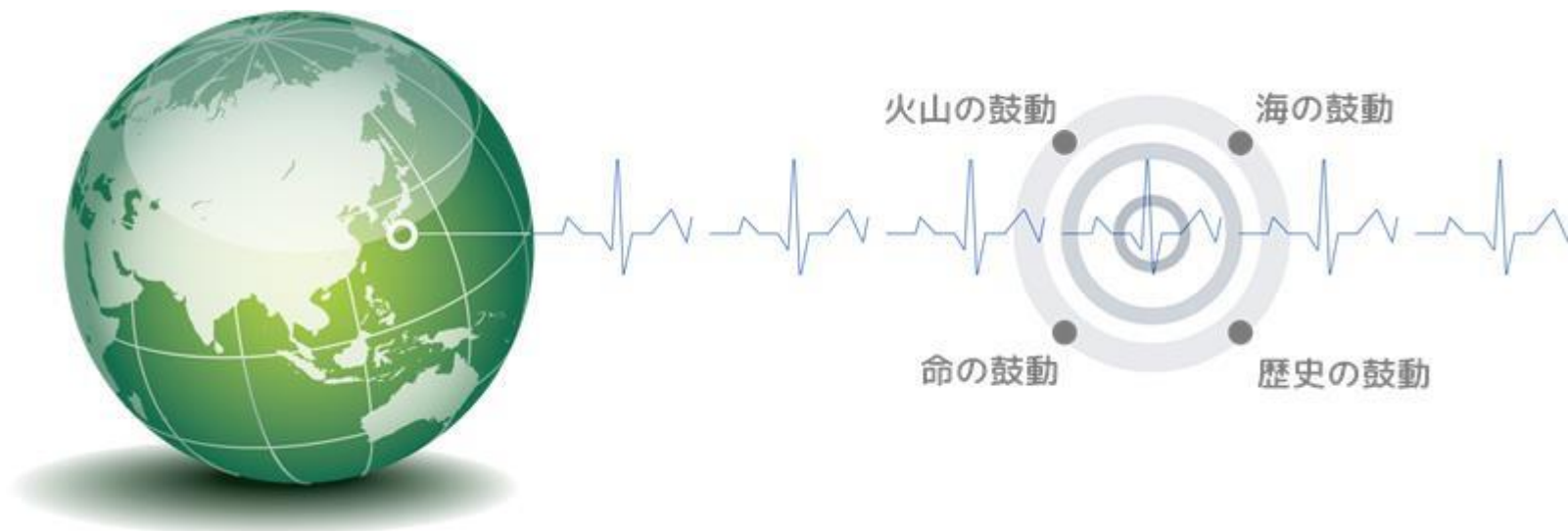


探究型教育旅行プログラム
「地球の鼓動を探しに行こう！」

～私たちと地球とのつながりを五感で感じよう～

教員向け指導ガイド



はじめに

本プログラムは環境省が国立公園をフィールドに平素と異なる生活環境で自然や文化に親しむ機会を提供し、同時に地域の持続可能性にも資することを目指したものです。

この指導ガイドでは「旅行・集団宿泊的行事」と「総合的な探究の時間および各科目・教科」を関連付けた探究学習を導入していただくために事前・現地・事後学習におけるプログラムの活用方法を解説しています。

目次

●	プログラム概要	4
●	プログラムのコンセプト	6
●	探究学習について	10
●	プログラムの流れ	12
●	各学習の進め方	14

プログラム概要

なぜ国立公園？

日本の国立公園 ～その自然には、物語がある～

日本の国立公園は「感動的な自然風景」「サステナビリティへの共感」「自然と人々の物語を知るアクティビティ」「感動体験をさせる施設とサービス」という4つを国立公園のブランドプロミス（国立公園が来訪者と地域に約束すること）に設定しています。日本の国立公園には、その場所に暮らす人々と自然の繋がりが生んだ物語があります。

「旅行・集団宿泊的行事」などの転地学習において、その地域の自然と人々の繋がりを探究することは、自然と自己との関わりを改めて捉える機会となりSDGsや持続可能性を自分事として認識することにつながります。探究学習でSDGs・持続可能性を取り扱う最適なフィールドとして国立公園をご活用下さい。



プログラム概要

プログラムの特徴

国立公園の自然体験を通して少人数制で探究学習をするプログラム

霧島錦江湾国立公園「桜島・錦江湾奥地区」について

霧島錦江湾国立公園は日本で最初の国立公園のひとつとして90年以上の歴史を誇ります。今回の舞台は霧島錦江湾国立公園の中でも多くの人々が暮らす「桜島・錦江湾奥地区」です。「活火山桜島」との共生、世界的にも珍しい環境がここにはあります。鹿児島県最大の市街地が、なぜ今でも毎日のように噴煙をあげる活火山のそばに形成されたのでしょうか。この地域で活躍する**インタープリテーション**の技術をもった方々と一緒に自然と人々の繋がりからその理由を解き明かします。

* **インタープリテーション**とは、体験の中に「聞く・見る・体験する・発見する」要素を組み込み、来訪者の興味や能力・個性などを引き出しながら伝えることであり、「桜島・錦江湾奥地区」では、その人材育成が進んでいます。

プログラムコンセプト

「地球の鼓動を探しに行こう！」 ～私たちと地球とのつながりを五感で感じよう～

桜島・錦江湾奥エリアは、桜島の火山やそれを囲む錦江湾の大自然から人・生態系のすべてが恵みを受けています。

参加者には、その大自然を五感で感じ取り、生きている地球を実感しながら、火山・海・産業（命）・歴史文化を切り口に現地の人や自然に触れてもらいます。そして未来をつくる参加者自身が、

- ・目の前の火山や海、地球の活動が人とどのようにつながっているのか？
- ・そのつながりを100年後も続く「豊かさ」にするために、私たちは何をしたらよいのか？

という問いについて考え、予測不可能な時代を生きていくヒントを得られるようにプログラムを設計しました。

プログラムコンセプト

プログラム終了後の生徒の理想の姿

- ・ 桜島・錦江湾の魅力を知り、人や地域を身近に感じている
- ・ 自分にとっての「豊かさ」について言語化している
- ・ 自分の住んでいる地域の未来について興味を抱く



プログラムコンセプト

コンセプト

「地球の鼓動を探しに行こう！」
～私たちと地球とのつながりを五感で感じよう～



問い

- ・ 目の前の火山や海、地球の活動が人とどのようにつながっているのか？
- ・ 100年後の未来にも続く「豊かさ」について、私たちに何ができるのか？

プログラムコンセプト

問い

- ・ 目の前の火山や海、地球の活動が人とどのようにつながっているのか？
- ・ 100年後の未来にも続く「豊かさ」について、私たちに何ができるのか？



生徒がコースを下記より選択し、「問い」に対する自分なりの解を探します

火山の鼓動コース

海の鼓動コース

命の鼓動コース

歴史の鼓動コース

探究学習について

探究学習とは？

2022年度施行の新学習指導要領において、
「総合的な学習の時間」→「総合的な**探究**の時間」に変更

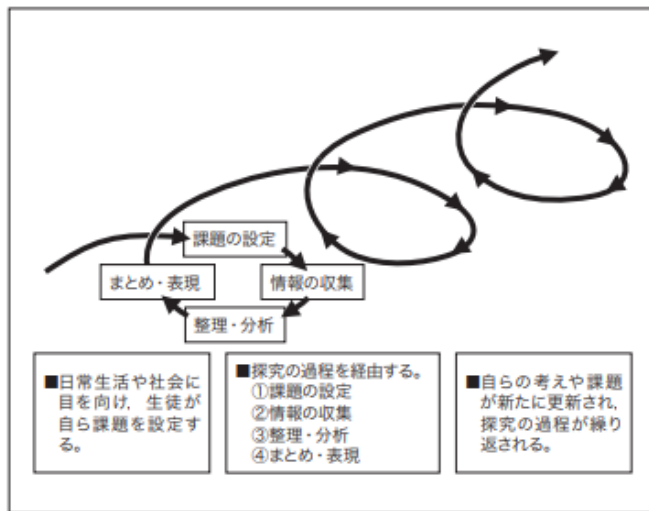


図1 探究における生徒の学習の姿

※出典【総合的な探究の時間編】
高等学校指導要領（平成30年告示）解説

日常生活や社会に目を向け、生徒の興味関心や問題意識から「正解のない問い」を設定し、その問いに対して仮説を立て、情報の収集や調査を繰り返しながら自分の解を導き出します。

左図のように4つのステップ

- ①課題の設定
- ②情報の収集
- ③整理・分析
- ④まとめ・表現

を踏むことが重要であると示されています。

探究学習について

少人数での探究型教育旅行

- ① **課題の設定** 体験活動などを通して課題を設定し課題意識を持つ
- ② **情報の収集** 必要な情報を集める
- ③ **整理分析** 収集した情報を整理したり分析したりして思考する
- ④ **まとめ・表現** 気づきや発見、自分の考えをまとめ、判断し表現する

これらの4つのステップは毎回順序よく進められるわけではなく、順番が前後する場合があります。1つの活動の中で同時に実施されたりします。**4つのプロセスを何度も重ねることで学びを深めていきます。**

プログラムは、設定された課題（問い）について探究学習を進められるように設計しています。

プログラムの流れ

本プログラムでは、事前学習・現地学習・事後学習を通して生徒がワークシートに沿って探究学習を進め、最終的に設定された問いへの解を発表します。

ワークシートをそのまま活用すれば探究学習を完了できるように設計されていますが、学校ごとの課題や指導方針に合わせて自由にアレンジしてご使用ください。

プログラムの流れ

事前学習

オリエンテーション

50分

現地ファシリテーターのオンライン講義

50分

教員主導

火山の鼓動コース

海の鼓動コース

命の鼓動コース

歴史の鼓動コース

現地ファシリテーター主導

※現地学習の詳細については、
パンフレットの各コースページをご確認ください。

事後学習

振り返り・発表準備

50分

グループでまとめ発表

50分

教員主導

各学習の進め方

事前・現地・事後学習は、ワークシートに沿って進めます。

		学習内容	ねらい
事前学習	1	○現地ファシリテーターによるキックオフ（オンライン） 参加生徒にとっての「豊かさ」を個人ワークで考え、現地インストラクターからプログラムの概要や現地の自然・人々の生活などについて講話を聞く。また、国立公園について理解する。	プログラム全体、現地学習の具体的なイメージを持ち、動機づけされる。
	2	○コース別事前準備 現地学習全体の進め方について理解する。チームに分かれ、各体験プログラムのキーワード、テーマ別での訪問先について調べ、テーマ内容や問いについて考え、理解する。	体験プログラムや問いに関心を持ち、学習の見通しを持つ。
現地学習	3	○現地学習 各日程でその日の体験内容を振り返り、プログラムを通して魅力に感じたことや問いの答えを探すために必要な要素を整理する。	各体験プログラムを通して、桜島錦江湾奥エリアの魅力を体験し、問いの答えを見つける。
事後学習	4	○振り返り 体験プログラムで学んだこと、得られた情報をチームで取りまとめ、振り返りを行う。問いの答えをまとめ、発表資料を作成する。	各体験プログラムを通じて学んだことや得た情報を取りまとめ、問いの答えを決める。
	5	○発表 チームで発表する（各チーム5分～10分程度目安）。現地インストラクターからコメントをもらう。	問いの答えを発表し、学びの成果品を作る。

各学習の進め方

事前・現地・事後学習は、ワークシートに沿って進めます。

●事前学習①

①現地ファシリテーターによるキックオフ

事前学習①					
ゴール	・プログラム全体の流れや国立公園についての理解を深める ・現地ファシリテーターのレクチャーで、現地学習の具体的なイメージをもち、動機づけされる ・自分にとっての「豊かさ」について考える				
所要時間	単元	形態	内容	進行	使用教材
0:03	イントロダクション	全体	プログラム全体の説明	担当教員	ワークシート 事前学習(1)
0:10	国立公園について	全体&個人	「国立公園」のイメージを個人で考え、ワークシートに書き出す	担当教員	
0:12	豊かさについて	個人	自分にとって「幸せ」と感じる時を個人で考え、どんな要素があれば幸せかについて考える	担当教員	
0:20	現地ファシリテーターの事前レクチャー	全体	・自己紹介 ・霧島錦江湾国立公園についての説明 ・現場の魅力やファシリテーターにとっての自然から得られる「豊かさ」について聴講する	現地ファシリテーター	
0:05	振り返り	全体&個人	次回の事前学習の内容について説明	担当教員	

※内容や時間配分は、各学校のプログラムや体制に合わせて調整ください。

各学習の進め方

事前・現地・事後学習は、ワークシートに沿って進めます。

●事前学習②

②コース別事前準備

事前学習②					
ゴール	参加コースに分かれ、現地学習での訪問先や体験プログラムに関心を持ち学習の見通しをもつ 現地学習、事後学習を共にするチームのメンバーについて知る				
所要時間	単元	形態	内容	進行	使用教材
0:03	イントロダクション	全体	前回（事前学習①）の内容の振り返りを実施	担当 教員	ワークシート 事前学習(2)
0:15	自分にとっての豊かさの共有	チーム (同じテーマ同士)	・（初対面のメンバーの場合）自己紹介 ・事前学習①で書きだした「豊かさ」についてチームメンバーに共有する		
0:30	訪問先の情報収集	個人&チーム	参加するテーマの訪問先やキーワードについて、ワークシートにある情報をもとに役割分担して調べ、チームメンバーに共有する		
0:07	持続可能な豊かさについて	全体	自分にとっての「豊かさ」は、100年後の未来でも感じることができるかについて考える		

※コース選択をする場合は、事前学習②までに選択を完了してください。
※内容や時間配分は、各学校のプログラムや体制に合わせて調整ください。

各学習の進め方

事前・現地・事後学習は、ワークシートに沿って進めます。

● 現地学習

③ 現地学習 1日目～3日目

現地学習					
ゴール	・ 現地の活動を毎日振り返り、どんな体験が印象に残っているか、感動したり好きだと感じたのかについて振り返りをする。また、チームメンバーに共有する				
所要時間	単元	形態	内容	進行	使用教材
0:02	振り返りワークの説明	全体	プログラム全体の説明	担当教員	ワークシート 現地学習 (1～3日目)
0:10	振り返りワーク	個人	その日の体験プログラムを終えて、聞いたり体験したことの中で、印象に残ったことを五感に紐づけて個人で振り返る。また、現地の人と地球との繋がりを豊かさとして捉えていたかについても振り返る。	担当教員	
0:15	チームで共有	チーム	個人で振り返りをした内容をチームメンバー同士で共有し、他の人の視点から気づきを得る	チームリーダー	
0:05	チーム代表が全体に共有	全体	翌日の活動についての説明、注意事項	担当教員	

※内容や時間配分は、各学校のプログラムや体制に合わせて調整ください。

各学習の進め方

事前・現地・事後学習は、ワークシートに沿って進めます。

● 現地学習

③ 現地学習 4日目

現地学習					
ゴール	・ 4日間の体験活動を振り返り、現地で発見した「地球との繋がり」と100年後にも繋がる「豊かさ」について整理する ・ 現地での発見や気づきを言語化し、事後学習に繋げる				
所要時間	単元	形態	内容	進行	使用教材
0:05	振り返りの説明	全体	プログラム全体の振り返りの説明をする	現地ファシリテーター	ワークシート 現地学習 (最終日)
0:30	振り返りワーク	個人	3日間の体験プログラムを終えて、聞いたり体験したことの中で、どのような「私たちと地球との繋がり」を発見したのか、100年後の未来にも繋がる「豊かさ」について個人で振り返る	担当教員	
0:50	チームで共有	チーム	個人で振り返りをした内容をチームメンバー同士で共有し、他の人の視点から気づきを得る	チームリーダー	
0:20	チーム代表が全体に共有	全体	チームの代表生徒が、チーム内でどのような発見や「豊かさ」が共有されていたかを全体に発表する	現地ファシリテーター	
0:10	現地ファシリテーターより最後の挨拶	全体	4日間の活動を終えて、ファシリテーターから感想や参加生徒へのメッセージを伝える（ファシリテーター以外の受入事業者が参加する場合は、その事業者からもコメントする）	現地ファシリテーター	

※内容や時間配分は、各学校のプログラムや体制に合わせて調整ください。

各学習の進め方

事前・現地・事後学習は、ワークシートに沿って進めます。

●事後学習①

④振り返り

事後学習①					
ゴール	現地学習を通じて学んだことや得た情報を取りまとめ、発表の準備をする				
所要時間	単元	形態	内容	進行	使用教材
0:15	情報の整理	個人	・ 現地でのワークシート、写真、パンフレット等を振り返り、整理する ・ 現地で考えた100年後にも続く「豊かさ」と自分の地域を合わせて考える	担当教員	ワークシート 事後学習(1)
0:35	発表準備	チーム	チームで、地域で見つけた「繋がり」と「豊かさ」を100年後の未来にも続く「豊かさ」にするために、私たちは何をしたいのか、何ができるかについて考え、発表準備をする	担当教員	

※内容や時間配分は、各学校のプログラムや体制に合わせて調整ください。

各学習の進め方

事前・現地・事後学習は、ワークシートに沿って進めます。

●事後学習②

⑤発表

事後学習②					
ゴール	チームで発表し、学びの成果品をもつ				
所要 時間	単元	形態	内容	進行	使用教材
0:05	イントロダクション	全体	発表内容、発表時間について再度確認	担当教員	ワークシート 事後学習(2)
	チーム発表	チーム	1チーム5分目安（質疑&コメント3分）	担当教員	
0:05	ファシリテーターコメント 終わりの挨拶	全体	オンラインにて現地ファシリテーターが総評 「豊かさ」について最後の振り返りをする	現地ファシリ テーター	

※内容や時間配分は、各学校のプログラムや体制に合わせて調整ください。